

OKAYAMA

あこがれのJリーガーも、ピッチの外ではやんちゃな少年のような一面をのぞかせる。ここでお届けするのは、選手のそんな素顔。「なんか、いいなあ」という選手を見つけたらスタジアムや練習場に行ってみよう。身近でふれあえるのは「Jのある街」だからこそ!

番外編!

「年末年始の読書におすすめの本!」

家で過ごす時間が増える年末年始。日頃、本をゆっくり読む暇がない人にとっては、絶好の読書チャンス。そんな年末年始の読書におすすめの本を、ファジアーノ岡山の選手に紹介してもらいました。



No.3 DF 久木田紳吾選手

『蝉しぐれ』

(藤沢周平・著/文藝春秋)

「時代物の話が好きで、藤沢周平さんの作品はよく読みます。この『蝉しぐれ』は、ドラマや映画にもなったので観た人も多いのでは? おすすめです」



No.17 MF 島田譲選手

『海賊とよばれた男』

(百田尚樹・著/講談社)

「経営者として社員をまとめる姿というのは、こうあるべきなんだと学んだ一冊です」



No.29 GK 松原修平選手

『棚橋弘至はなぜ新日本プロレスを変えることができたのか』

「とりえず飛び込んでみることの重要性や、逆風でも全力でやると追い風になることなど、競技や職種は違えど参考になることがたくさんありました」



No.21 DF 加地亮選手

『スポーツ選手の自伝』

「イチロー選手や錦織圭選手など、スポーツ選手の自伝やエッセイなどをよく読んでいます。考え方などを参考にしたり、刺激を受けたり。僕も引退したら本を出そうかな(笑)」



No.1 GK 中林洋次選手

『天空の蜂』

(東野圭吾・著/講談社)

「東野圭吾さんの作品を読むことが多いです。どれも意外性のある展開でおもしろい。「グラスホッパー」も最近読みました。アウェイゲームの移動中などに本をよく読んでます」



No.30 FW 豊川雄太選手

『「筋肉」よりも「骨」を使い!』

(甲野善紀、松村卓・著/ディスカヴァー・トゥエンティワン)

「ただ筋力トレーニングをして筋肉を鍛えるだけでなく、どのように身体を使うと効果的であるかが書いてあり、おもしろい。実践するのが難しいところもあるけど、参考になります」

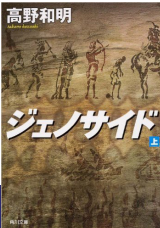


No.11 FW 三村真選手

『ジェノサイド』

(高野和明・著/角川書店)

「意表を突かれる展開で、どんだのめり込んでしまうほどおもしろかった。今は司馬遼太郎の『燃えよ剣』を読んでいます」



No.35 DF 岩政大樹選手

『卵をめぐる祖父の戦争』

(デイヴィッド ベニオフ・著/田口俊樹・訳/早川書房)

「戦時中の外国の様子も知ることができ、表現もおもしろい。ほかに三島由紀夫の『命売ります』もおすすめ。一見手に取りにくい印象のある時代の作品ですが、読みやすいです」



No.23 DF 久保飛翔選手

『練習は不可能を可能にす』

(小泉信三・著/山内慶太、神吉創二・編/慶應義塾大学出版会)

「スポーツがもたらす3つの宝について書いてあり、それにとっても感銘を受けた。スポーツをしている中高生におすすめです!」

